

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成 19 年 7 月 31 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	( 評価機関で記入 ) 3 4 7 1 5 0 4 3 0 2
法人名	前田海苔株式会社
事業所名	グループホーム 美の実
所在地	福山市水呑町畝丸2707 - 4 ( 電 話 ) 084 - 956 - 0029

評価機関名	NPO法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11 - 31 - 201
訪問調査日	平成19年7月20日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 7 月 1 日
ユニット数	2 ユニット   利用定員数計 人
職員数	8 人   常勤 4人, 非常勤 2人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32千~35千 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 月 日現在)

利用者人数	11 名	男性	3 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低 71 歳	最高 94 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	いそだ病院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「美の実」の代表者が『自分の育った地域に何か貢献は出来ないのか』との思いから、グループホームの開設に至ったので地域との関係がよい。1ユニット6名で12名の利用者で、ゆったりとして落ち着きがあり、アットホームな雰囲気がただよっている。職員からは『入居者中心・入居者のペースに合わせて』と異口同音に言葉が出る。リビングの中央に明かり取りの透明の大きな煙突のようなものがあり、それが1階ユニットと2階ユニットをつなぎ、どちらの階も見渡せる。運営推進会議・SFネット会・他のグループホームとの交流会・家族会とあらゆる場を自分たち職員の学びに役立てている。また、記録を記録に終わらせずに、各家族に利用者個人の1ヵ月分のケア記録を送付して、具体的な様子を通信とともに報告している。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が始めての外部評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回始めて自己評価をしたが自分たちではすべて出来ていると思う。しかし外部の評価を受ける事により自分たちの気づかない点がわかることはよい事だと思っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進委員会をしっかりと活用している。2ヶ月に一度、定期日を決めて開催している。折角の集まりが雑談だけで終わらないために、計画に基づいて議題を決め進めていく。参加者の立場に応じてそれぞれ違う意見があるので、参加者も勉強になると出席者は多い。また、SFネット会(市の保健課・地域包括支援センター・病院医師・特別養護老人ホーム・老人保健施設・グループホーム等)を組織化し、グループホーム17件と交流会を催し、それぞれを勉強の場としている。折々の出席者は固定化せず勉強したい職員が参加するようにしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の来訪時に声かけをして話を聞くようにしている。しばらく来られていない家族には電話で話を聞く。入居者の日々の暮らしについて家族が不安を持たないように、こと細かく記入できるケア記録表(食事内容、身体・精神状況、ケアプラン、入浴、受診、服薬等)を作成して、金銭管理の報告・通信と共に毎月送付している。また、家族会もあるので、家族同士の集まりの場で意見を出しやすいように図っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の一員として、町内会の行事等、地域活動(溝掃除・祭り等)に参加している。地域の人達はグループホーム「美の実」の代表者を知っているので、近所付き合いがしやすく、おみやげとか野菜とかいいただくこともある。ボランティアの方も週三回くらい来てくれる。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の代表者が(何か地域に貢献したい)との思いから、グループホーム「美の実」開設に至ったので、地域との密着度は深い。家庭的な環境と地域住民との交流のもとで日常生活の介助を利用者のゆっくりしたペースに合わせて、安心と尊厳のある生活を営むことを支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、月に1～2度のミーティングで何を大事にしているか、利用者のペース、家族の安心は守られているかを話し合いながら、日々の介護に向けての気づきを伝えあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の一員として町内会の行事等、地域活動に参加している。地域の民生委員・ボランティアが週に2～3回訪問している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価・外部評価である。外部評価を受ける事により自分たちが気づかなかった点を明確にしたい。評価には前向きに取り組んでいく予定である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に行っている。運営推進会議ではグループホーム側の一方的な報告にとどまらず、議題を計画的に決めて話し合っている。メンバーは参加を楽しみにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	SFネット会(市の保健課・地域包括支援センター・病院・特別養護老人ホーム・老人保健施設・グループホーム等で組織)のメンバーと様々な問題を提案して勉強会を開催している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時や電話で報告している。利用者個々の状況(食事内容、身体・精神状況、ケアプラン、入浴、受診、服薬等)をきめ細かく記入するケース記録を作成し、毎月家族に請求書とともに送付している。他に金銭管理の報告をコピーした領収書を添付して送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、家族同士の集まりの場で意見を出しやすい仕組みを作っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交代による利用者のダメージを防ぐ取り組みとして、始めから2ユニットの職員全員で、利用者に関わっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は自分の受けたい研修を出勤扱いで受けられる。また、月に一回、同業者との交流勉強会、SFネット会にも管理者に限らず出席して勉強が出来る。職員のチームワークがよいので自分の勉強したい研修に出席しやすい。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一回、他の施設やグループホームの同業者との間で交流の場が設けられていて、事業者同士協同しながら質向上に向けて活発な意見交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に何度か訪問してもらい、みんなでお茶を飲んでもらったり、話をしてもらい、家族の気持ちが先行していないか、本人が自然に馴染んでくれるのを待っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者とコミュニケーションが取れる関係を大事にしている。利用者は職員の身だしなみ等を注意したり、身体を心配してくれる。料理も教えてくれて、対等な家族的な関係である。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>担当者や職員は利用者との日々の雑談の中から思いが伝わる。ケアマネージャーはそれを聴き取りながらケアプランに活かしている。家族には来訪時に聞いている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者・家族によく意見を聞かれ話し合っている。より身近な介護計画を作成している。リハビリパンツから声かけ誘導で布パンツへ、眠剤、安定剤を使わなくても眠れるようにする等である。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、利用者や家族の意見を聞かれ、介護計画の見直しを行う。入院等で利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度本人・家族とその関係者が話し合い、実情に合った介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況に応じて、通院介助・薬の受け取り等の病院関係の支援は職員である看護師が柔軟に対応して、利用者や家族の負担を少しでも軽減するよう努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と地域のかかりつけ医が定期的に2週間に一度、隔週で往診している。受診の際は職員の看護師が勤務時間を変更して、通院介助等を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	地域のかかりつけ医や家族と話し合いの場は設けている。対応できる病院と相談をしながら文書を作成中である。		重度や終末期の利用者を支える場合に備えて関係者各位での話し合いや連携体制作りを準備していくことが望ましい。チームの連携、職員の力量、他の利用者への影響、諸条件を考慮しながら、本人や家族の意向を踏まえて、安心して納得した最期を迎えられるように、取り組まれることに期待する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報はすべて事務所に保管している。尊厳ある言葉かけを職員は心がけている。2時間おきのトイレ誘導の声かけは特に声が大きくなるように、職員同士で注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人のペースにそって、本人がしたい事を職員は見守りながら一緒に生活をしている。就寝時間も決まりはなく本人のテレビの都合などで23時頃が普通だし、晩酌を楽しんでいる利用者も居られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・食事・片付け等を利用者のペースに合わせてながら、職員とすべて一緒にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には一日おきであるが、利用者本人の希望が最優先で毎日入る利用者・一日おき、様々である。時間も利用者一人ひとりの意向にそって支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	四季を感じる行事や地域の行事を大事にしている。その人に合った楽しみや役割を見つけ、炊事・掃除・洗濯・畑仕事は職員と一緒に、手仕事が好きの方は清拭の布を縫ってもらい、囲碁が好きの方は他のグループホームに呼びかけて対戦相手を探し、利用者の知人に昔話をしに来てもらう等...支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の気分や希望に応じて、日常的に散歩や買い物・ドライブを職員と一緒に楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを研修で理解し、日中は鍵をかけずに、出て行く気配を見落とさない見守りに対応している。夜21:00～朝6:00の間のみ鍵をかけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団に頼んではいるが、訓練までには至っていない。		災害はいつ起きるかわからない。昼夜を通じて様々な発生時間を想定し具体的な避難誘導策を検討してみる必要がある。災害も火災、地震、台風等がある。いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるように訓練を繰り返す事が望まれる。また地域の力も必要なので運営推進会議で協力をお願いするのも大切である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	い 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1600cc以上、食材は一日の中で同じものは使わない等を心がけ、水分・食事摂取表を作成している。水分が取れない利用者が多いので部屋にお茶のペットボトルを持ち込んだり、コーヒー・緑茶・ポカリスエット・ゼリー等と飲み物に工夫をこらしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は1人になれるちょっとしたスペースや2,3人で雑談ができるコーナー・リビングには数人がくつろげるゆったりとしたソファが置かれている。台所は対面式で大きなガラス戸を背にしているので食卓テーブル付近は自然な光が射している。縫いぐるみ等の小物が棚などにそれとなく置かれ、自然体で居心地よく過ごせる場になっている。		
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室はゆったりとして広く、タンス等も置いて十分な広さがある。一日の流れの中で利用者が居室に戻るのは寝る時だけである。共用の空間が利用者の方々が安心して集える場となっており居心地よく過ごせるようである。		

# 介護サービス自己評価

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 美の実

事業所住所 広島県 福山市 水呑町 2707-4

記入年月日 19年 6月 18日

記入者 職 管理者 氏名 赤井 千景

## 目 次

<ul style="list-style-type: none"> <li>理念に基づく運営 . . . . . 1</li> <li>1 理念の共有 . . . . . 1</li> <li>2 地域との支えあい . . . . . 1</li> <li>3 理念を実践するための制度の理解と活用 . . . . . 2</li> <li>4 理念を実践するための体制 . . . . . 2</li> <li>5 人材の育成と支援 . . . . . 4</li>   <li>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 . . . . . 4</li> <li>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 . . . . . 4</li> <li>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 . . . . . 5</li>   <li>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント . . . . . 6</li> <li>1 一人ひとりの把握 . . . . . 6</li> <li>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し . . . . . 7</li> <li>3 多機能性を活かした柔軟な支援 . . . . . 7</li> <li>4 本人がより暮らし続けるための地域資源との協働 . . . . . 7</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1</li> <li>1</li> <li>1</li> <li>2</li> <li>2</li> <li>4</li>   <li>4</li> <li>4</li> <li>5</li>   <li>6</li> <li>6</li> <li>7</li> <li>7</li> <li>7</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 . . . . . 9</li> <li>1 その人らしい暮らしの支援 . . . . . 9</li> <li>(1) 一人ひとりの尊重 . . . . . 9</li> <li>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 . . . . . 10</li> <li>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 . . . . . 11</li> <li>(4) 安心と安全を支える支援 . . . . . 12</li> <li>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 . . . . . 13</li> <li>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり . . . . . 14</li> <li>(1) 居心地のよい環境づくり . . . . . 14</li> <li>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり . . . . . 15</li>   <li>サービスの成果に関する項目 . . . . . 16</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9</li> <li>9</li> <li>9</li> <li>10</li> <li>11</li> <li>12</li> <li>13</li> <li>14</li> <li>14</li> <li>15</li>   <li>16</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員方々と連絡を取りミーティングにて話し合いをしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングにて説明し改善すべき点をみんなで話し合いをしている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	なるべく多くの方々へ参加して下さるよう声掛けをしそこで出た意見についてみんなで話し合っている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内会行事に参加している		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム内・外で研修を行い研修報告として家族会などで報告している		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内・外で研修を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	充分説明している		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	相談窓口及び相談箱を設置し繰り返して伝えている		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	来訪時に随時暮らしぶり健康状態を報告し1ヶ月に1度文書にて報告している		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	相談窓口及び相談箱を設置し繰り返して伝えている		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ミーティング及び面談を行っている		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	工夫したローテーションを作っている		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	各ユニットごとに職員を分ける事をせず全職員が全入居者を支援している。随時職員と面談を行っている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングにおいて外部への研修参加への働きかけを行っている	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会及び研修を行っている	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ間の親睦悩みの傾聴を随時行っている	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれが役割を持ち分担しておく	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問をし本人の話を何度も聞きスタッフ全員に知らせている	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問をし家族より話を何度も聞きスタッフ全員と話し合いをしている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ミーティングを開きスタッフよりいろいろ意見を出し合っている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に何度か訪問して頂きみなでお茶等を飲む機会を作っている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	学びあい成長し合える活動を取り入れている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪時及び電話等にて連絡し話し合っている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年に何度か家族と共に食事会を開催し参加している		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来訪出来る様開放している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常の中で助け合い認め合える関係作りをしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も家族等に電話にて様子を聞いている		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定を促すような言葉掛け		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前からの生活歴を随時家族から聞き出し即実現実行している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	見渡せる場所で見守りをし、まず観察から始め何をしようとしているか想像してみるよう心掛けている		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者家族も含めて話し合い介護計画を立てている		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者家族も含めてその都度話し合い介護計画の変更を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的な記録をしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の知り合いの方に来訪して頂き昔話をしてもらい回想療法を実施している		
地域密着型サービス評価の自己評価票				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアによる外出来訪を行っている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターなどへ意見を聞いたりしている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居相談を中心に蜜に連絡を取っている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の医院の往診及び受診を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診しやすく認知症ホームの事を理解して下さる医院と契約している		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間対応出来る様連絡している		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療ソーシャルワーカーと入院日から連絡をとっている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医家族と話し合いの場を設けている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と連絡を取っているスタッフと話し合いをしている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時に十分な情報交換を行っている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報はずべて事務所に保管し尊厳を持った声掛けを行っている	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を促すような言葉掛け広告物等で答えを出すヒントを提供して出来るだけ自己決定して頂く	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気持ちを尊厳し各自に合わせたペースで生活している	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は本人希望・家族希望に合わせて対応している	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理をし一緒に食事をとり片付けも一緒にしている	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表により排泄パターンを把握しプライバシーに配慮した声掛けを行っている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日何時でも入浴出来るようにしている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間と夜間の相関関係を分析し安眠に心掛けている。至る所に腰掛けられる所を作り休めるようにしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一緒に掃除したり食器洗い洗濯物干したたみをしている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布を持ち自己管理されている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一緒に散歩や買い物ドライブなどしている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一緒に考え必要に応じて家族の協力をもらいながらしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙電話がいつでもしやすいよう設定している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	くつろぐやすい場所を用意している		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングにて報告研修を行い啓発に努めている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	研修を行い充分理解しており日中開放している。夜間のみ施錠		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見渡せる場所で入居者さんの把握をしている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全な場所を決め管理している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会研修を行いマニュアルを作成している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会を行っている。緊急時マニュアルを作成している		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団の方と連携を取り避難訓練をしている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時及び体調に変化がある時家族等に説明し話し合いを持っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の状態を申し送りや記録に残し伝達している		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの意見や薬の情報を理解している又受診服薬ノートをつくりスタッフ全員が出勤時目を通すようにしている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を作成し飲食物の工夫や運動を行っている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時毎食後と1日4回うがい義歯洗浄を行っている。自ら出きる方には声掛けを行っておる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取食事摂取表を作成している献立表を作成し同じ食材ばかり使わないようにしている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	資料を作成しマニュアル化している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日夜間消毒を行い買い物へ行き使用期限のチェックを行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を開放し花を植えて玄関に四季折々の花やかざりをしている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースで雑談等の出来るスペースを確保している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーにてくつろげるスペースを確保外のベンチもいつでも使えるようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	本人の使い慣れタンス・服・箸・湯のみ・コップ等を持ち込ん でいる		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	行っている。湿度計・温度計が見える場所に設置している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	必要と思われる所に手すりスロープをつけている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	音の大きさ光の強さに配慮しトイレやお風呂の入り口部屋の 入り口にはわかりやすいよう飾り付けをしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ホームの周りに季節の草花植えいつでも誰でも活動出来るよ うにしている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)